

# 三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会（第1回） 議事概要

- 1 開催日時 平成28年8月30日（火）10時30分～12時10分
- 2 場 所 三条市役所 本庁舎4階 第二委員会室
- 3 出席者 [委 員]  
高橋（委員長）、兼古（副委員長）、シャハリアル、大湊、勝見、齋藤の  
各委員（6名）  
  
[三条市（事務局）]  
國定市長（会議冒頭の挨拶後に退席）、市川政策推進課主幹、  
坂田高等教育機関設置準備室長、石田一般任用主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 報道機関 越後ジャーナル社、エヌ・シー・ティ、建設速報社、三條新聞社、  
新潟日報社、日本工業経済新聞社、北陸工業新聞社
- 6 配付資料
  - ・資料1 三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会設置要綱
  - ・資料2 三条市総合計画（抜粋）
  - ・資料3 大学設置構想に必要なとなる教学に関する主な検討事項
  - ・資料4 大学設置認可に係る申請から認可までのスケジュール
  - ・資料5 大学運営に係る収支項目
  - ・資料6 設置形態によるメリット・デメリット
  - ・資料7 高等教育機関の設置に係るアンケート調査結果（平成27年度実施）
    - 1 高校生
    - 2 高校教員
    - 3 事業所
  - ・資料8 新たな高等教育機関
  - ・資料9 平成28年度スケジュール
  - ・参考資料 議論のための参考データ等

## 7 会議概要

### (1) 開会

### (2) 委員の紹介

### (3) 市長挨拶

### (4) 委員長及び副委員長の互選

- 「三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会設置要綱」第5条第2項に基づき、委員の互選により、高橋委員が委員長に、兼古委員が副委員長に選出された。

### (5) 議事

- 事務局から、設置形態に関する市の考え方とともに、配付資料に基づき、検討を行っていただくに当たっての参考情報等について説明があった。
- 各委員による意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ① 卒業生の約8割が高専卒である違いはあるが、長岡技術科学大学がこれまで行ってきた実践的なものづくり教育や、産業界と協同する教育を行ってきた実績があるため、三条市が目指す大学像の参考になるものと考えられる。産業界のご助力をいただくことは、社会人の学び直しの場合、卒業生の地元志向などにも寄与すると考えられ、重要である。実践力の高い人材、地元企業・産業の素晴らしさを知る人材の育成が必要である。
- ② 当地の産業では、人材確保が危惧される状態が続いている。工場の祭典やものづくりメッセなどを通じて職人のイメージは変わりつつあり、なりたいという人も増えている。時代の変化に柔軟に対応できる人材や経営に参画できる優秀な人材が必要。グローバルな視点でマーケティング等についても考えられる人材が求められる。ものづくりの好きな人材を集められる教育機関となってほしい。その人材が地元に着し、地元のよさを世界にアピールしてくれることを願う。
- ③ 県央地域で技術経営に関する調査を行ったことがある。多くの企業に訪問調査を行ってわかったことは、企業の大小に関わらず共通して必要とされる知識や技術が存在するという点で、そこから専門に分化していく。この大学でその共通する部分の教育を基礎教育として行うべき。この地域でどのような高度な資格や技術が必要とされているかについて調査し、カリキュラム等に反映する必要がある。文部科学省が指定するカリキュラムでできることと企業の力を借りて学修することとを並行して行うとよい。
- ④ この地域の企業の特徴は、ハードウェアに特化しているということ。ものづくりもソフトウェアの時代だといわれている中で、このことは逆に強みになり得る。工業系の大学の多くが実学・実践・ものづくりを謳っている中で、地元で学び、地元で就職することを目指すのであれば、制御や先端技術でもなく、伝統技能だけでもない、現代に通用するこの地域ならではのものづくりについて考える必要がある。

- ⑤ この地域の産業は後継者不足が深刻であり、廃業もめずらしくない。若い世代が跡を継いでも、技術の伝承が十分でない状況が続いている。技術の伝承に貢献できる学びの場となってほしい。コミュニケーション力は教育機関で身に付けてほしい。
  - ⑥ 技術の伝承や教育にはコストがかかる。教育にコストをかけられるような余裕が経営側にはない企業が多いことも問題。企業としても教育ができる体制を整える努力が必要。
  - ⑦ グローバル化、高付加価値化などを進めて活躍している若い経営者も増えた。そういう経営者の片腕になれるような人材が必要。この地域の技術力が安価に提供されていた傾向もあったので、その技術力を高価なものとして売り出していくことを後押しできるような人材を育てられる教育機関となるとよいのではないか。
  - ⑧ 視野が広く、結合力、発想力、創造力の豊かな経営者が活躍している。そういう経営者のサポートができる人材がいると、産業の進化・発展のスピードが上がるだろう。
  - ⑨ 技術者でありながらも経営の視点も有し、地元企業間での連携まで考えられる人材が求められる。
- 事務局から次回以降の委員会の開催予定時期と議題案についての説明があった。
- (4) 閉会

了